

経営比較分析表（令和3年度決算）

神奈川県 横須賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	78.47	97.56	2,629	

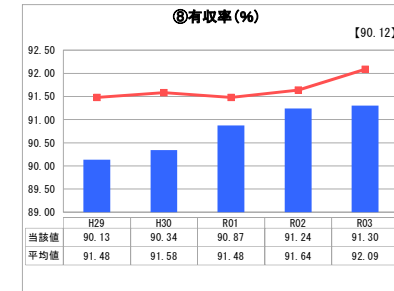
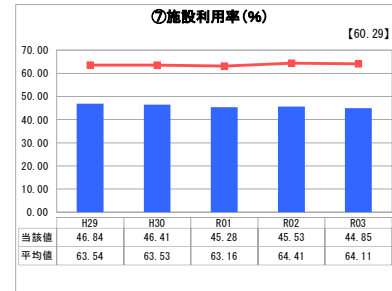
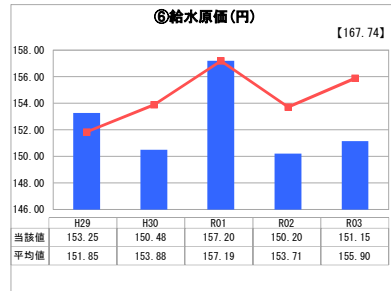
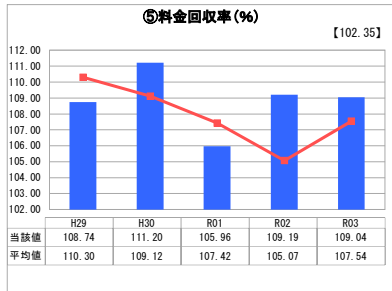
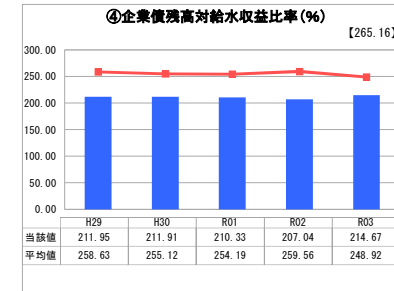
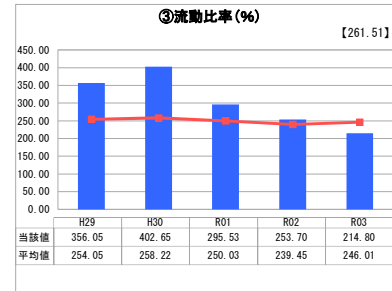
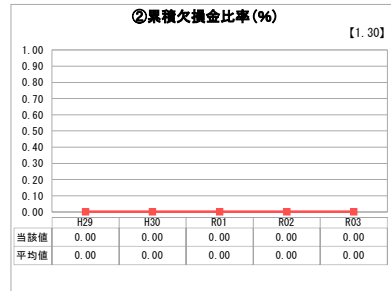
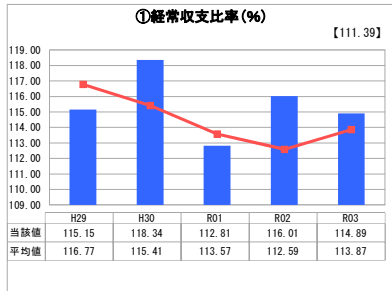
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
392,817	100.82	3,896.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
380,482	101.05	3,765.28

グラフ凡例

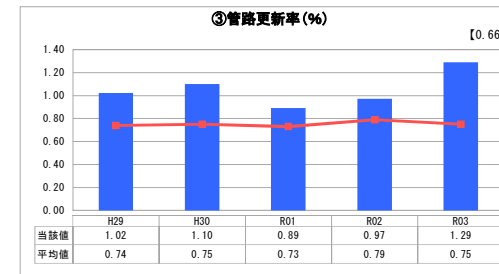
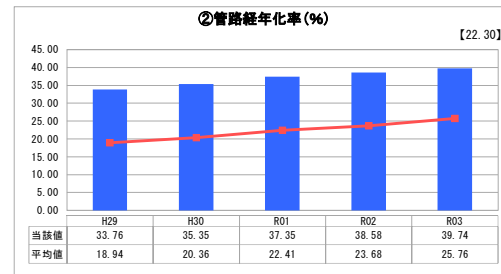
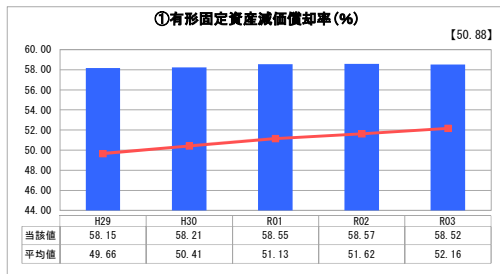
- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)

【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は昨年より低くなりましたが、100%以上で類似団体平均値を上回っており、② 累積欠損金比率は引き続き0%となっています。
 ③ 流動比率は200%以上ですが、減少傾向にあり、類似団体平均値を下回りました。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は昨年より少し高くなりましたが、この5年間はほぼ横ばいです。全体として、昨年と大幅な変化はなく、健全な経営状態を保っていると考えています。
 ⑤ 料金回収率は100%以上を保っています。
 ⑥ 給水原価は昨年より高くなりましたが、類似団体平均値を下回っています。
 ⑦ 施設利用率は類似団体平均値を下回っており、施設能力と給水量に差があります。浄水場の廃止などダウンサイジングを検討しています。
 ⑧ 有収率は、類似団体平均値を下回っていますが、上昇傾向にあります。引き続き、配水管の更新を進めることで改善を図っていきます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価却率及び② 管路経年率は類似団体平均値より高い水準にあります。これは、本市の給水開始時期が明治41年（1908年）と古く、施設の老朽化が進んでおり、また、高度経済成長期に整備した管路が法定耐用年数を超えているためです。
 ③ 管路更新率は、類似団体平均値を上回っています。今後も管路の重要度などにより優先順位をつけて計画的に実施することで、更新費用の平準化を図ります。

全体総括

人口減少や節水型社会の定着など本市水道事業を取り巻く環境は、厳しい状況にあります。平成23年度から令和3年度までを計画期間とするマスタープランに掲げた経営目標「いつでも安心して使える止まらない水道・下水道」を実現するため、計画的な事業運営に取組み、目標は概ね達成できました。
 令和4年度以降も、人口・水需要の減少、施設の老朽化、環境対策、災害対策など、事業を取り巻く課題に対応するため、新たなマスタープランにより計画的な事業運営に努めます。
 なお、平成27年2月に半原水源系統を廃止しましたが、今後も浄水場の廃止などダウンサイジングを検討していきます。